

# 女城主 井伊直虎の誕生

相次ぐ当主の死により、井伊家の命運は尽きたかと思われたが、この窮地を救うため、次郎法師が立ち上がった。女城主直虎の誕生である。

## III EPISODE

今川氏の要求をかわし  
徳政令の実行を延ばす

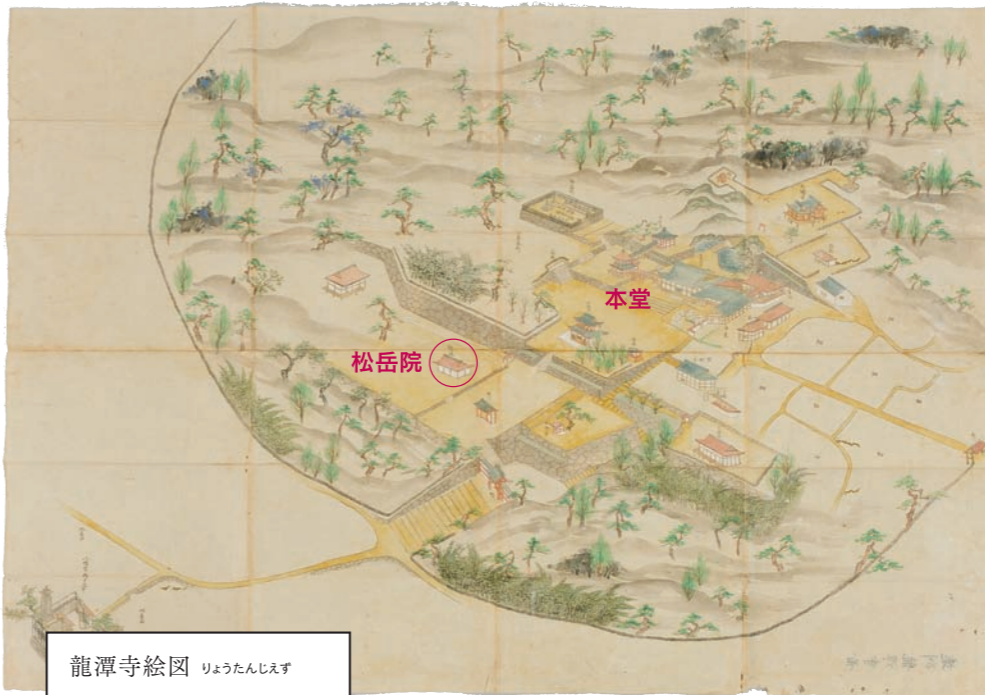
永禄8年(1565)、次郎法師は幼い虎松を守るため、南溪和尚と相談し、『井伊直虎』と名乗り、領主となる決心を固めた。女城主の誕生である。直虎が最初に直面したのは、今川氏から出された徳政令だった。すぐに徳政令を受け入れれば、井伊家が危ういと察した直虎は、これを2年間引き延ばすが、今川氏は永禄11年(1568)、徳政令を実行。直虎は城主の立場を失ってしまう。これにより、

今川氏とひそかに通じていた小野政次が井伊領を支配することとなる。母の暮らす龍潭寺松岳院に身を寄せた直虎は、戦況を見つめることしかできなかった。また、幼い虎松は父と同じ運命をたどり、三河(愛知県)の鳳来寺に預けられ、虎松の母は松下清景と再婚。一族は離散に追い込まれてしまった。

※徳政令 朝廷や幕府が債権者に対し、債権放棄を命じた法令で、鎌倉時代から室町時代、主に農民から農地を守るために用いられたが、この時の徳政令は井伊氏の力を弱めるためのものであった。



「頭振るのじゃ!」

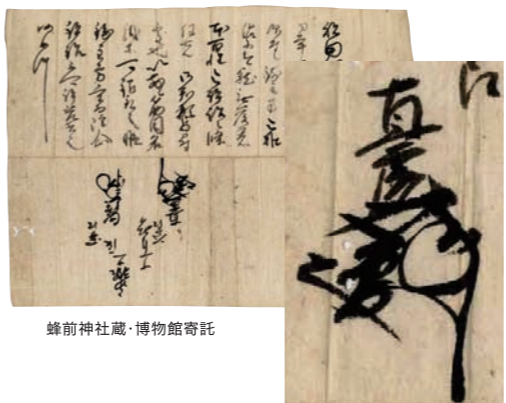


龍潭寺絵図 りょうたんじえず

江戸時代に描かれた龍潭寺の境内図。直虎が身を寄せた松岳院は、現在の龍潭寺の本堂の南側にあった。彦根城博物館所蔵 画像提供:彦根城博物館/DNPartcom



貴重な史料のじゃ!



蜂前神社蔵・博物館寄託

## はちきじんじや 蜂前神社所蔵 直虎書状

浜松市博物館には、井伊直虎の花押が記された唯一の古文書「井伊直虎関口氏経連署状(蜂前神社文書・市指定文化財)」が保管されている。当時、花押は身分のある男性が用いるものであった。直虎が男性として振舞っていたことがわかる史料。

はままつしほくぶつかん  
浜松市博物館  
浜松市中区蛸塚4-22-1 ☎053-456-2208  
交/JR浜松駅遠鉄バス②乗り場より「蛸塚・佐鳴台」行で約15分、「博物館」下車  
料/常設展 大人300円/高校生150円/小中学生無料  
http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/  
〈平成28年12月17日～平成29年4月9日「井伊直虎と湖北の戦国時代展」開催〉

# 徳川家康と 武田信玄 井伊領への侵攻



徳川家康の遠江侵攻後、徳川家の支配下となった井伊領に武田信玄の軍が攻めてきた。弘坂で激戦を交えることになり、多くの武将を失った。

## IV EPISODE

31歳の家康の前に  
甲斐の虎・信玄が立ちはだかる

直虎が城を出て一ヶ月後、三河の徳川家康が遠江侵攻を開始。今川家の武將で地元の情報に詳しい鈴木重時・菅沼忠久・近藤康用の三人、通称

井伊谷三人衆の手引きにより進軍した。今川領となっていた井伊谷城、引間城、堀川城を立て続けに攻め落とす。ほどなく、長年井伊家を支配してきた今川氏が滅亡し、井伊領の運命は、徳川対武田の勢力争いに委ねられることになる。元龜3年(1572)には、武田軍が遠江に攻め込み、三方ヶ原の戦いが起こる。徳川軍は武田軍に大敗し、井伊領は大混乱に陥ってしまう。

## 立体 しかみ像

「徳川家康三方ヶ原戦役画像」、別名「しかみ像」の立体像。徳川家康公顕彰400年記念事業の一環で2015年に制作された。浜松市博物館に展示されている。

## なんけいずいもんちんそう 南溪瑞聞頂相

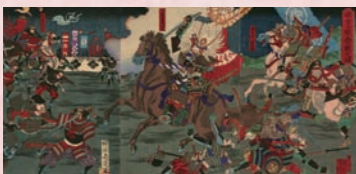
井伊家の菩提寺である龍潭寺の二世、南溪和尚の肖像画。向かって右を向いている肖像は生前に描かれたことを現している。「自分の教えを後世に伝えて守れ」という南溪和尚直筆の漢詩がしたためられた貴重な史料。(龍潭寺所蔵)

南溪和尚は直虎の大叔父じや!



## 家康 人生最大の 危機

## 家康の生涯最大の負け戦 三方ヶ原の戦い (みかたがはらのたたかい)



出展:パブリックドメイン美術館

元龜3年(1572)12月、武田信玄が徳川家康を破った合戦。家康の人生で最大の惨敗といわれ、大切な家臣を多く失った。命からがら浜松城へ逃げ帰る途中、武田軍に追われる恐怖からか、馬上で脱糞したという逸話が残る。城に戻った家康は自らの情けない姿を絵師に描かせ、戒めとして生涯手元に置いたと伝えられている。